「第 8 回製剤機械技術学会仲井賞若手研究者奨励賞」受賞者の選考結果について

The 8th NAKAI Young Investigator′s Encouragement Award of the Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会　委員長 戸塚　裕一
Yuichi Tozuka
Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立 10 周年を機に、2000 年より「仲井賞」を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。2017 年 1 月に本会名誉会長仲井由宣先生がご逝去されました。製剤機械技術学会は仲井先生のお持ちであった本会創設にあたっての理念、目標を継承、発展することを目的とし、新たに「仲井賞若手研究者奨励賞」を設け、基礎研究、応用研究、または技術開発を通じて優れた業績を上げた満 45 歳以下の会員を表彰することにいたしました。

仲井賞選考委員会において、応募内容について、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第 8 回製剤機械技術学会仲井賞若手研究者奨励賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

記

・受　賞　者：岡田　康太郎　（富山大学）

・受賞業績題目：分子運動性に基づく製剤評価を目的とした時間領域 NMR の応用研究

・受 賞 理 由： 医薬品開発において、有効成分と添加剤の製剤中での配合状態を評価することは、品質維持の観点で非常に重要である。特に、製剤化工程中で薬物を非晶質化して製する固体分散体製剤の分散状態を把握することは重要であるが、一方で今なお可視化できない部分が残されているため、現状においてもその評価手法の確立が期待されている。候補者らの研究では、時間領域 NMR 法の有用性を明らかとし、固体分散体製剤の均一性を定量的に評価できる方法を確立している。一連の研究成果は多数の投稿論文や学会発表にて公表されており、学術的な貢献度は評価される。前回 2023 年申請時においては未公開であった特許技術「固体分散体の相分離評価方法（特願 2022-162018)」についても出願から 1 年 6 ヶ月を経過して公開されており、この技術情報が公知となることによる産業上の技術発展が期待される。また、受賞候補者の前職における成果として「医薬品組成物およびその製造方法（特許第 7079209 号)」等、複数の特許出願をされており、いずれも特許査定に至っている。これらは、当該特許技術が新規性、進歩性、産業上の利用可能性を有すると認められた結果であり、受賞候補者が産業的に貢献した研究成果の一部と評価される。受賞候補者のこれまでの研究実績を総合的に考慮すると、医薬品分野における技術開発を促進する複数の研究成果を継続的に公表している点で、産業的な貢献度は高いと判断する。以上の理由から、選考委員会は岡田康太郎氏の業績が仲井賞若手研究者奨励賞に値すると判断した。

以上